

平成22年度・DPC制度に関する調査等の対応について(案)

平成21年度調査報告に関する議論(平成22年6月30日・DPC評価分科会及び平成22年7月14日・中医協総会)を踏まえ、平成22年度のDPC制度に関する調査等については、次のような対応としてはどうか。

1. 調査目的の考え方(整理案)

- (1) DPC制度導入影響の評価
- (2) 新たな機能評価係数の導入に関する調査
 - ①平成22年改定で導入した機能評価係数Ⅱ(6項目)の影響評価
 - ②今後導入を検討する評価項目に関する調査
- (3) 急性期入院医療に係る評価

2. 平成21年度調査の追加集計(案)

- (1) DPC制度導入影響の評価
 - ① 病院類型を見直した上での各種再集計
 - 病床規模別の分類
 - 病床構成に着目した分類
 - 年齢階級に着目した分類
 - ② 新たな項目に着目した集計
 - 手術数の経年変化の集計
 - 病床稼働率の経年変化の集計
 - 化学療法と放射線療法を分離した集計
 - 入院化学療法の内容の集計
 - 逆紹介率の集計
 - 退院時の転帰別の再入院率の集計
 - 再入院率と再転棟率の相関を見る集計
 - 比較的定型化された手術の術前術後在院日数の集計
 - 退院先で分類した再入院・再転棟率の集計
- (2) 平成22年改定で導入した機能評価係数Ⅱ(6項目)の評価
(該当なし)

(3) 急性期入院医療に係る評価

(具体的に必要とされる調査事項があれば実施)

3. 平成22年度に実施する調査

3-1. 退院患者調査(通常調査) 【調査開始済み】

3-2. 特別調査(案)

- (1) DPC制度導入影響の評価
 - 再入院調査・再転棟調査
 - 診断群分類の妥当性に関する調査(医療機関ヒアリング)
- (2) 新たな機能評価係数の導入に関する調査
 - ①平成22年改定で導入した機能評価係数Ⅱ(6項目)の影響評価
 - 係数導入後の診療行動変化(職員アンケート調査)
 - ②今後導入を検討する評価項目に関する調査
(個別項目の議論の進展に応じて今後検討)
- (3) 急性期入院医療に係る評価
(具体的に必要とされる調査事項があれば実施)

(参考1) これまでに指摘された通常調査の追加集計候補

- <分類項目>
- 病床規模別に病院を分類した上での各種集計
 - その他の病床の有無により病院を分類した上での集計(特に再転棟調査において)
 - 年齢階級別に患者を分類した上での集計

- <集計項目>
- 手術数の経年変化の集計
 - 病床稼働率の経年変化の集計
 - 化学療法と放射線療法を分離した集計
 - 入院化学療法の内容の集計
 - 患者の重症度を加味した疾患毎の集計
 - 退院時の転帰別の再入院率の集計
 - 逆紹介率の集計
 - 再入院率と再転棟率の相関を見る集計
 - 退院先で分類した再入院・再転棟率の集計

- (参考2) これまでに実施された特別調査
- 再入院調査・再転棟調査 (H16～)
 - 診断群分類の妥当性に関する調査 (H16～)
 - 医療連携と退院後受療に係る調査 (H16,H17)
 - 医薬品・医療材料に係る調査(後発医薬品調査) (H16)
 - 検査・画像診断に関する調査(入院外来の分類に係る調査) (H16)
 - 医療の達成度、患者満足度に係る調査 (H16,H17)
 - 看護の必要度に係る調査 (H16,H17)
 - アウトカム評価・臨床指標/医療機能の変化に係る調査 (H16)
 - ガイドラインの活用具合に係る調査 (H21)
 - 救急医療の提供体制について (H21)
 - 医療従事者の人員配置について (H21)

診調組 D-3-2	診調組 D-10
2 2 . 7 . 1 6	1 7 . 4 . 1 2

DPC導入の影響評価に係る調査項目及び評価の視点(平成16年度)

調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
(診断群分類の妥当性)			
1-1 ○ 診断群分類の該当率	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、類似のDPCで1日当たり点数が高く、かつ、在院日数の基準日が高い群へのシフトがないか。 ○ 包括評価制度の導入前後を比較して、診断群分類点数表による請求額と医科点数表に基づく出来高算定との差額が大きい診断群分類に該当する患者の割合が低下していないか。(ばらつきの多い診断群分類の該当率が低下し、ばらつきの小さい診断群分類の該当率が増加していないか。)	○	診断群分類別件数(平成14・15・16年) MDC毎の作業班
1-2 ○ 診断群分類の構成割合		○	
	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、同一疾患群における出来高算定と包括算定の割合が変化していないか。	○	MDC毎の作業班
	○ 高齢者などのハイリスク患者の率が低下していないか。	△	MDC毎の作業班 ※「ハイリスク」の定義が必要。
1-3 ○ アウトライヤーの状況	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、特定入院期間を超える率や出来高点数と包括点数の乖離が一定以上の率が変化していないか。	○	MDC毎の作業班
1-4 ○ 包括範囲点数及び在院日数のばらつき	○ ばらつきの原因として、年齢、重症度、看護必要度などの患者特性、地域特性(後方病院の整備状況等、他医療機関との連携状況)、病院の管理体制(退院基準の設定状況)が影響していないか。(小規模な聞き取り調査の実施とその結果を受けた大規模調査を検討。)	△	医療連携と退院後受療に関する調査 ※どのような地域特性、病院の管理体制を勘案するか。場合によっては追加調査を実施することが必要。
1-5 ○ DPC変更率、変更理由	○ 合併症の増加によるDPCの変更が増加していないか。	△	※請求した診断群分類の変更の状況は把握可能。(別添1)

把握の可否:「7月から10月の退院患者に係る調査」「特別調査」で把握できる場合に「○」、集計にあたって検討が必要な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「-」を記載

調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
(診療内容の変化等)			
2-1 ○ 平均在院日数(診断群分類別、MDC別、医療機関別、診療科別等)	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、相対的に在院日数が短かった病院における入院日数の延長がないか。 ○ 包括評価制度の導入前後を比較して、在院日数に応じた評価の基準日数までの入院が増えていないか。	○ ○	病院別在院日数(平成14・15・16年) (別添2)
2-2 ○ 病床利用率	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、在院日数の短縮化が進む中で、病床利用率が変化していないか。	○	(別添3)
2-3 ○ 入院・外来比率	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、入院・外来比率が変化していないか。	○	アウトカム評価・臨床指標/医療機能の変化に関する調査
2-4 ○ 入院経路、退院先	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、在院日数の短縮化が進む中で、入院経路、退院先が変化していないか。	○	入院経路・退院先の状況(平成14・15・16年)
2-5 ○ 退院時転帰(入院中死亡率等)	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、在院日数の短縮化が進む中で、退院時転帰(入院中死亡率等)が変化していないか。	○	転帰の状況(平成14・15・16年)
2-6 ○ 退院後転帰	○ 在院日数の短縮化が進む中で、退院後の退院先での転帰が変化していないか。	—	※ 今後、保険者側からの調査などにより把握可能か検討予定。
2-7 ○ 再入院率	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、短期間で再入院した患者の率が増加していないか。 ○ 包括評価制度の導入前後を比較して、同じ疾患または続発症により再入院した患者の率が変化していないか。 ○ 包括評価制度の導入前後を比較して、予期しない再入院が増加していないか。	○ ○ ○	再入院率に関する調査 再入院に関する調査 再入院に関する調査
2-8 ○ 他医療機関への再入院の状況	○ 術前化学療法などの計画的な入退院が影響していないか。 ○ 他の医療機関への再入院が増えていないか。	○ —	再入院に関する調査 ※ 今後、保険者側からの調査などにより把握可能か検討予定。
2-9 ○ 転院先医療機関従事者満足度	○ 転院先の医療機関における医療従事者の満足度が変化していないか。	○	医療連携と退院後受療に関する調査

把握の可否:「7月から10月の退院患者に係る調査」「特別調査」で把握できる場合に「○」、集計にあたって検討が必要な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「—」を記載

調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
2-10 ○ 薬剤・医療材料の使用状況	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、薬剤、医療材料の使用状況が変化していないか。	○	医薬品・医療材料に係る調査
2-11 ○ 検査・画像診断等の実施状況	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、γグロブリン製剤、制吐剤、ステロイド剤等の使用状況が変化していないか。 ○ 包括評価制度の導入前後を比較して、高額な抗がん剤の使用状況が変化していないか。 ○ 適応外使用の状況がどうなっているか。 ○ 後発医薬品の採用状況がどうなっているか。	○ ○ ○ — ○	医薬品・医療材料に係る調査 医薬品・医療材料に係る調査 医薬品・医療材料に係る調査 ※ どのように適応外使用を把握するか 医薬品・医療材料に係る調査
	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、検査等の実施状況が変化していないか。 ○ 包括評価制度の導入前後を比較して、画像診断、病理組織検査、時間を要する高度な検査の実施状況が変化していないか。 ○ 包括評価制度の導入前後を比較して、外来にうつせるような、他医療機関で実施できるような検査、投薬の実施状況が変化していないか。(特定の診断群分類について評価することを検討。)	○ ○ ○	検査・画像診断に関する調査 MDC毎の作業班 検査・画像診断に関する調査
	○ 包括評価制度の導入前後を比較して、中心静脈注射による高カロリー輸液療法の実施状況が変化していないか。	○	(別添4)
	○ ハイリスク患者、または重症例の過小診療が行われていないか。合併症、併存症に対する治療が適切に行われているか。転科して治療を行う率が低下していないか。	△	※ ハイリスク、重症例の定義をどうするか。
	○ 手術等の出来高となっている診療行為の実施状況が変化していないか。	○	(別添5)

把握の可否:現在実施している7月から10月の退院患者に係る調査で把握できる場合に「○」、一部把握可能な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「—」を記載

	調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
2-12	○ 医療の達成度、患者満足度	○ 主治医の入院目的の達成度が変化していないか。 ○ DPC毎の退院基準の設定状況がどうなっているか。 ○ 患者満足度が変化していないか。 ○ 化学療法などが外来にシフトしたことによって、患者のQOLなどが変化していないか。	○ 一 ○	医療の達成度・患者満足度に関する調査 医療の達成度・患者満足度に関する調査 (本項目については、現時点では評価のためのデータの収集が困難) 医療の達成度・患者満足度に関する調査
2-13	○ アウトカム評価、臨床指標	○ 手術の成功率、外科手術における再手術率、救急外来受診率、5年生存率が変化していないか。 (本項目については、現時点では評価のためのデータの収集が困難ではないかとの意見があった。)	△	アウトカム評価・臨床指標/医療機能の変化に関する調査
2-14	○ 看護の必要度	○ 看護の必要度が変化していないか。(既存のデータの活用も検討。)	○	看護の必要度に係る特別調査

把握の可否：現在実施している7月から10月の退院患者に係る調査で把握できる場合に「○」、一部把握可能な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「一」を記載

	調査項目	評価の視点	把握の可否	評価に用いた結果表等
	(医療機関の機能の変化)			
3-1	○ 高度医療の提供実績	○ 高度先進医療、臓器移植、治験の種類と数が変化していないか。 ○ 新医療技術の導入が阻害されていないか。包括評価導入後薬価基準に新たに追加された薬剤の使用が阻害されていないか。	○ ○	アウトカム評価・臨床指標/医療機能の変化に関する調査 MDC毎の作業班
3-2	○ 教育研修機能	○ 教育研修機能が変化していないか。	○	アウトカム評価・臨床指標/医療機能の変化に関する調査
3-3	○ 地域医療との連携状況	○ 地域医療との連携状況の違いに地域特性が影響していないか。	○	医療連携と退院後受療に関する調査
3-4	○ 医療の質に関する取り組み	○ 院内委員会の設置状況はどうか。 ○ クリニカルパスの数と適用数はどう変化するか。	○ ○	アウトカム評価・臨床指標/医療機能の変化に関する調査 アウトカム評価・臨床指標/医療機能の変化に関する調査
3-5	○ 医療の提供体制	○ 組織、マンパワーが変化していないか。 ○ 看護師比率などが変化していないか。(在院日数が短くなった医療機関を重点的に調査することを検討)	○ ○	アウトカム評価・臨床指標/医療機能の変化に関する調査 アウトカム評価・臨床指標/医療機能の変化に関する調査

把握の可否：現在実施している7月から10月の退院患者に係る調査で把握できる場合に「○」、一部把握可能な場合に「△」、別途調査が必要な場合に「一」を記載

DPC変更率

	15年度	16年度
データ数	300733	313974
分析対象数	111591	112100
DPC変更	あり	あり
件数	18972	19155
%	17.00%	17.09%
分析対象外	189142	201874

※様式5の集計
 ※DPCを3ヶ月以上に渡って算定していた患者が対象。
 ※DPC集計院等2病院対象
 ※平成15年度のDPC集入時期に合わせて平成16年度も同様の時期に合わせて集計。
 ※様式5にエラーがあったものは分析対象外。

DPC変更率と副標準ありとの関係

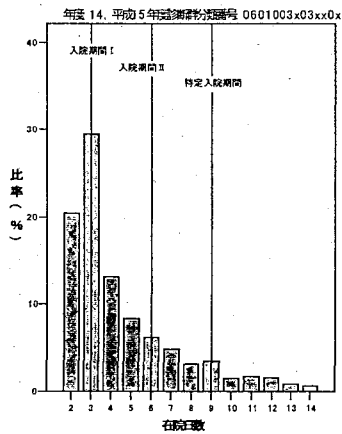
	15年度		16年度	
	あり	なし	あり	なし
分析対象数	111591	112100	111591	112100
DPC変更	あり	なし	あり	なし
件数	18972	92819	19155	92845
%	17.00%	83.00%	17.09%	82.91%
DPC13桁(算定終了時)	x	なし	x	なし
件数	9568	3978	5428	22832
%	8.57%	3.58%	4.88%	20.48%

※算定終了時の様式5における、DPC13桁目(副標準の有無)の集計。

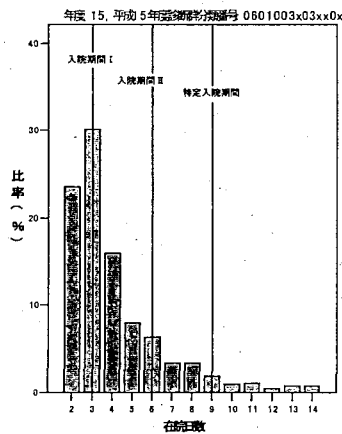
別添1

在院日数に応じた評価の基準日数までの入院

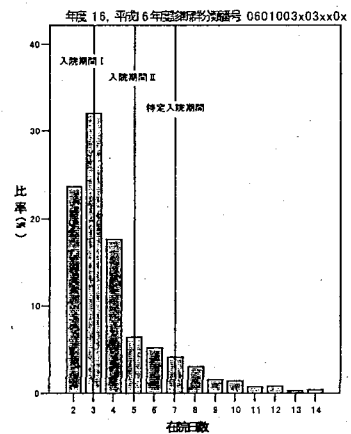
0601003x03xx0x:小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術 その他のポリープ・粘膜切除術等 副標準なし



平成14年度平均在院日数: 5.23日



平成15年度平均在院日数: 4.64日



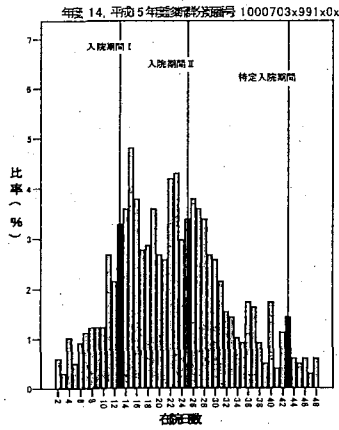
平成16年度平均在院日数: 4.37日

別添2

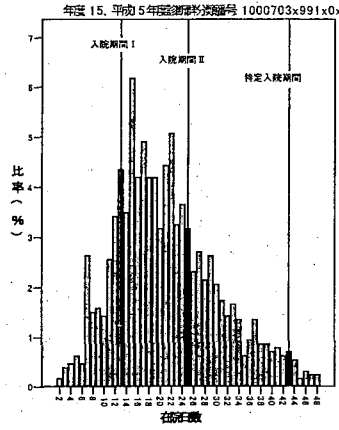
※1.特定機能病院等2病院対象
 ※2.平成16年度データのうち、平成16年度DPCの件数の多いもの対象(うち、平成15年度と16年度の包括対象DPCで診断群分類の内容に変化が無いもの対象)

在院日数に応じた評価の基準日数までの入院

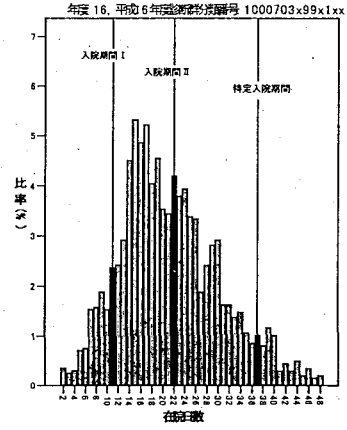
1000703x991x0x:2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。) 手術なし 処置等1あり 副傷病なし



平成14年度平均在院日数:25.82日



平成15年度平均在院日数:22.73日

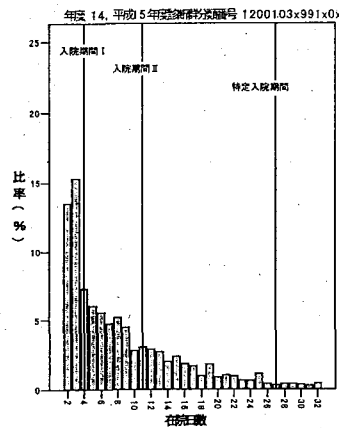


平成16年度平均在院日数:23.39日

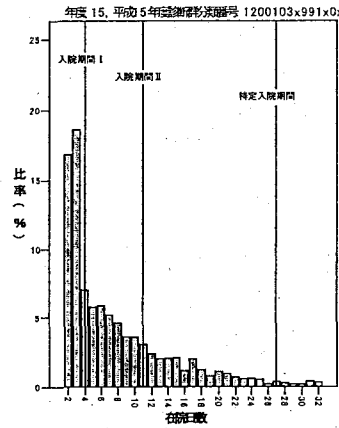
※1.特定機能病院等82病院対象
 ※2.平成16年度データのうち、平成16年度DPCの件数の多いもの対象(うち、平成15年度と16年度の包括対象DPCで診断群分類の内容に変化が無いもの対象)

在院日数に応じた評価の基準日数までの入院

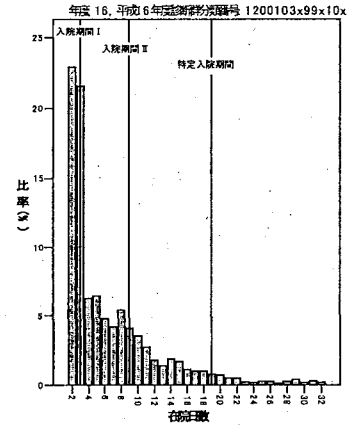
1200103x991x0x:卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 処置等1あり 副傷病なし



平成14年度平均在院日数:12.64日



平成15年度平均在院日数:10.66日



平成16年度平均在院日数:8.09日

※1.特定機能病院等82病院対象
 ※2.平成16年度データのうち、平成16年度DPCの件数の多いもの対象(うち、平成15年度と16年度の包括対象DPCで診断群分類の内容に変化が無いもの対象)

主要手術実施件数の推移

別添5

平成16年度DPC導入の影響評価に関する調査及び評価について

平成17年4月
診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会長
西岡 清

K0821(人工関節置換術(肩、股、膝))				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	2133	2428	2414	6975
試行的適用病院		588	586	1174
調査協力病院		63	74	137
合計	2133	3079	3074	8286

K2824(白内障手術、超音波摘出術)				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	10017	10535	11565	32117
試行的適用病院		3132	3533	6665
調査協力病院		545	619	1164
合計	10017	14212	15717	39946

K283(眼内レンズ挿入術)				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	11175	11887	12918	35980
試行的適用病院		3726	3793	7519
調査協力病院		560	663	1223
合計	11175	16173	17374	44722

K6552(胃切除術(腹腔鏡(補助)下によるものを含む悪性腫瘍手術)				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	1593	1648	1677	4918
試行的適用病院		593	569	1162
調査協力病院		111	107	218
合計	1593	2352	2353	6298

K672-2 (腹腔鏡胆嚢摘出術)				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	1287	1381	1347	4015
試行的適用病院		895	974	1869
調査協力病院		160	138	298
合計	1287	2436	2459	6182

K8881(子宮付属器腫瘍摘出術(両側)開腹によるもの)				
施設分類	平成14年	平成15年	平成16年	合計
DPC病院	1745	1719	1858	5322
試行的適用病院		746	645	1391
調査協力病院		112	175	287
合計	1745	2577	2678	7000

※エラーデータ等除外

※DPC病院 82病院、試行的適用病院 62病院、調査協力病院 20病院

当分科会は、中央社会保険医療協議会基本問題小委員会の付託をうけ、DPC導入の影響を検証するため、「DPC導入の影響評価に係る調査項目及び評価の視点」をとりまとめ、具体的な調査設計について検討を行った。

その結果、平成16年度は、従来から実施している「①7月から10月までの退院患者に係る調査」及び「②診断群分類の妥当性に関する調査(MDC毎の作業班)」に加えて、下記の③から⑨の調査について新たに調査を実施することが妥当であるとの結論を得、各調査を実施した。

これらの調査結果に基づき、当分科会において「DPC導入の影響評価に係る調査項目及び評価の視点」に沿ったDPC導入の影響評価を行ったので、調査結果と併せて報告する。

なお、DPC導入の影響評価のフレームワーク及びDPC導入の影響評価に係る調査については別紙の通りである。

(DPCの評価の視点及び評価項目の概要)

【診断群分類の妥当性を評価するための調査項目】

診断群分類の該当率、構成割合、アウトライヤーの状況、包括範囲点数及び在院日数のばらつき、DPC変更率・変更理由

【診療内容の変化等を評価するための調査項目】

平均在院日数、病床利用率、入院・外来比率、入院経路・退院先、退院時転帰、退院後転帰、再入院率、薬剤・医療材料の使用状況、検査・画像診断等の実施状況、医療の達成度・患者満足度、アウトカム評価・臨床指標、看護の必要度

【医療機関の機能の変化を評価するための調査項目】

高度医療の提供実績、教育研修機能、地域医療との連携状況、医療の質に関する取り組み、医療の提供体制

(DPCの影響評価に係る調査について)

- ① 7月から10月までの退院患者に係る調査
- ② 診断群分類の妥当性に関する調査 (MDC毎の作業班)
- ③ 再入院調査
- ④ 医療連携と退院後受療に係る調査
- ⑤ 医薬品、医療材料に係る調査
- ⑥ 検査、画像診断に関する調査
- ⑦ 医療の達成度、患者満足度に関する調査
- ⑧ 看護の必要度に係る特別調査
- ⑨ アウトカム評価・臨床指標/医療機能の変化に係る調査